

『アンダルシーア風土記』

永川玲二著
岩波書店スペイン・アンダルシーア地方の
地理条件に宿命づけられた歴史を
古代から追う。

第5章のテーマは、歴史です。私自身が歴史オタクですので、歴史に関する本はとりわけたくさん読んできたように思います。その中でも、選りすぐりと考える本を、ご紹介していきます。

本は何でもそうですが、歴史書もまず面白くなければ全く意味がありません。つまらない本から読み始めると、それこそ歴史嫌いになってしまいます。そこで、まず最初にこちらの本を読んでみてください。『アンダルシーア風土記』（岩波書店）です。

「アンダルシーア」は、イスラム王朝が支配した時代のスペインの呼称で、その時代に関する話を中心で。学校で習った後ウマイヤ朝（756〜1031年）からグラナダ王国が滅ぶ1492年までの約800年にわたる「幸福なスペイン」の物語です。

この本ではアンダルシーア地方の歴史を、カエサルも登場する古代ギリシャ・ローマあたりからイスラムの台頭、後ウマイヤ朝の支配を経て、イスパニアの女王の使いで旅に出たコロン（コロンブス）がカリブ海の島、新大陸を発見する1492年あたりまでをたどっています。

後ウマイヤ朝時代におけるスペインの支配者は、まさに「アラビアン・ナイト」（東洋文庫）の世界に生きた人たちでした。「アラビアン・ナイト」は、美女や王の寵姫が活躍する物語です。実際、スペインのイスラム王家は、歌舞音楽をととても大事にしていました。元来、アラブ人はストイックで喧嘩に強かったはずですが、スペインのように気候が暖かくてオレンジがたわなに実る国にやってきて、大勢の美女に囲まれる暮らしを続けた結果、どんどん軟弱になっていきます。そして、キリスト教国に押されるようになりました。王朝の支配者たちは、アフリカには同じムスリムであるベルベル人がつくった強い軍隊を持った国家があるので、彼らに支援を仰いでもう一度キリスト教国を撃破しようかなどと考えますが、その一方で、「ベルベル人は確かに強力な武力を持っているが、アンダルシーアの妖艶で楽しい歌舞音楽の世界に没りきっている自分たちを見れば、きつと墮落していると思うに違いない。そして、我々をつぶそうとするのではないか」などと本気で悩むのです。

そういった様子が描かれている本書は実に人間味あふれる良書ですが、残念ながら絶版なので、図書館や古本屋で入手してください。早く文庫本になってほしい一冊です。

「歴史を面白く」ということで、次の推薦本はこちらです。『気候で読み解く日本の歴史』